

世界が進むチカラになる。



米国景気概況(2024年9月)

2024年9月3日

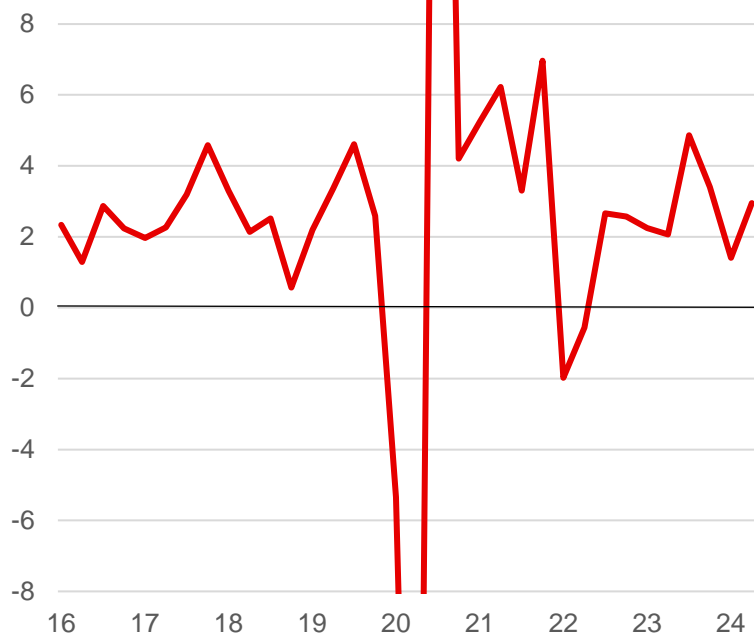
調査部 主任研究員 細尾 忠生

景気は底堅い

米国経済は底堅く推移している。4-6月期の実質GDP成長率(改定値)は前期比年率3.0%と、8期連続でプラス成長となった。個人消費、設備投資、政府支出、輸出が堅調であったほか、在庫投資が0.8%ポイント成長率を押し上げた。一方、企業の景況感を示すISM景況指数は、製造業で判断の目安となる50の水準を下回った。先行き、個人消費がこれまで好調に推移した反動などで弱含むとみられるが、全体として景気は底堅く推移する見通しである。

実質GDP

(前期比年率、%)

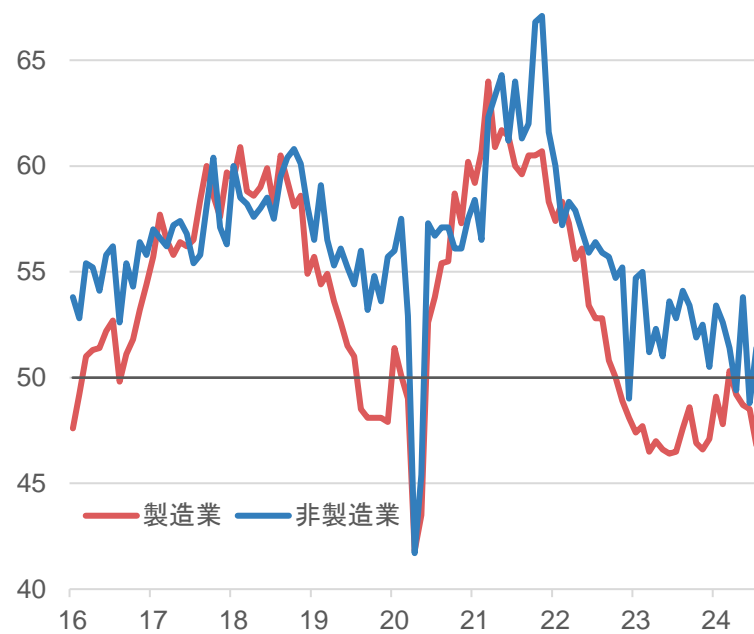


(出所)米商務省

(年、四半期)

ISM景況指数

(%)



(出所)米供給管理協会

(年、月次)

生産減少、雇用増加、失業率上昇

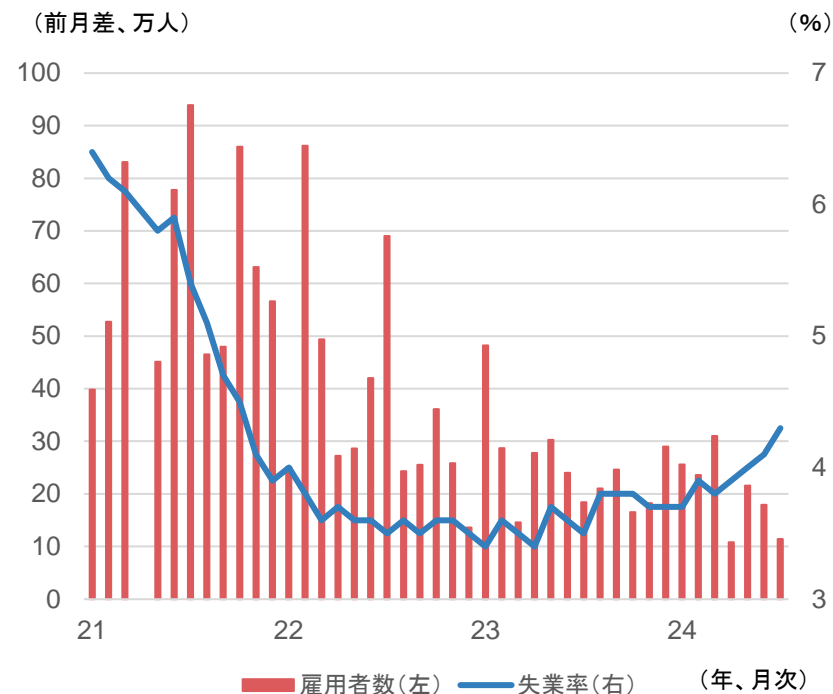
- 7月の鉱工業生産は前月比0.6%減と4ヶ月ぶりに減少した。自動車・部品が同7.0%減少したほか、ハリケーンの影響で電力などの公益も同3.7%減少した。設備投資動向を示す7月のコア資本財出荷は同0.4%減と3ヶ月連続で減少した。
- 7月の非農業部門雇用者数は前月差11.4万人増加した。教育・医療(同5.7万人増)、建設(同2.5万人増)、娯楽・宿泊・飲食(同2.3万人増)が雇用増をけん引した。失業率は4.3%と同0.2%ポイント上昇し2年9ヶ月ぶりの水準に悪化した。失業者が同35.2万人増加したことなどが失業率を押し上げた。

鉱工業生産



(出所)米FRB

雇用



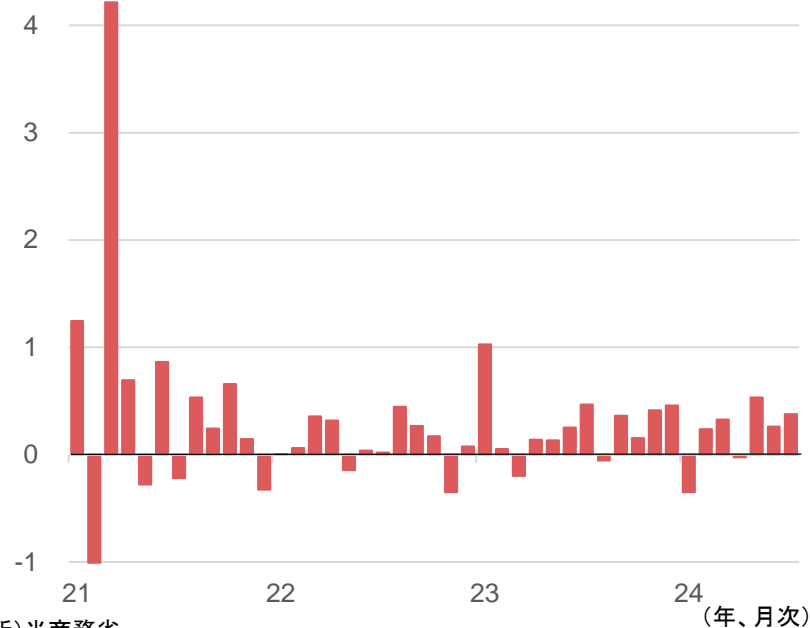
(出所)米労働省

消費は増加、物価上昇率は高水準ながらも鈍化傾向

- 7月の実質個人消費は前月比0.4%増加した。自動車などの耐久財消費が同1.7%増加したほか、非耐久財消費が同0.2%増、外食、宿泊などのサービス消費も同0.2%増加した。
- 消費者物価(エネルギーと食料品を除くコアベース)上昇率は、7月は前年比3.2%と3年3ヶ月ぶりの水準に鈍化した。FRBが重視する個人消費支出物価指数(同)上昇率は、7月は同2.6%と3年2ヶ月ぶりの水準に鈍化した5月から3ヶ月連続横ばいであった。いずれも水準は依然として高いものの鈍化傾向が続いている。

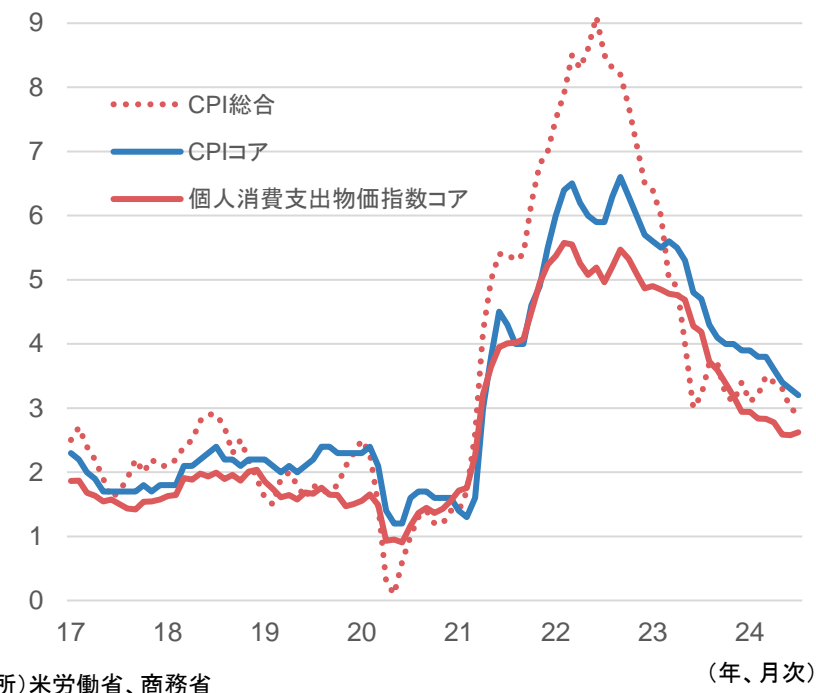
実質個人消費

(前月比、%)



物価

(前年比、%)

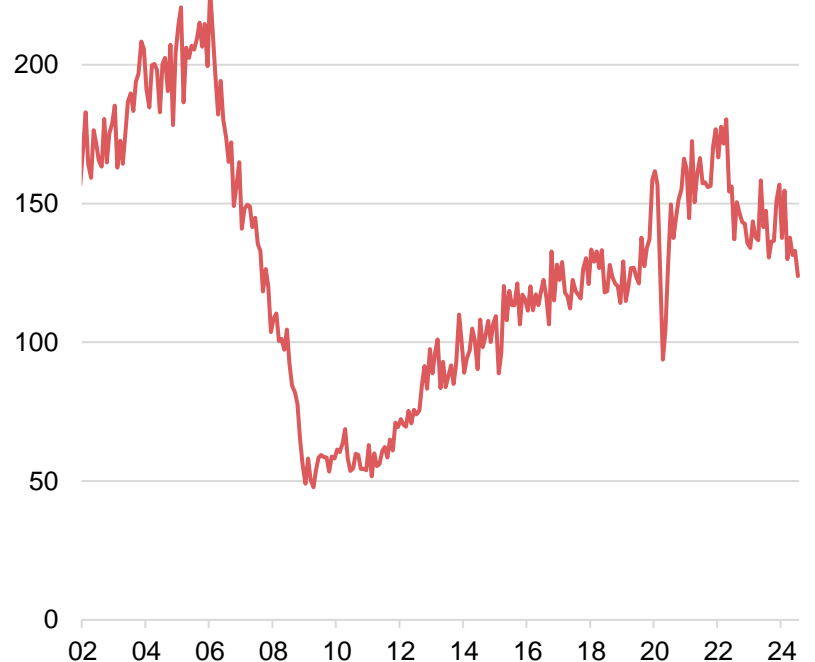


住宅着工は減少、住宅価格は上昇

- 7月の住宅着工件数は年率124万戸と、コロナ禍の2020年5月以来4年2ヶ月ぶりの低水準となった。ローン金利の高止まりに加え、ハリケーンの影響が住宅着工の抑制要因となった。
- 5月の住宅価格指数は前年比5.4%上昇した。上昇は13ヶ月連続となったが上昇率は3ヶ月連続で鈍化した。米国では住宅の供給不足が根強く、住宅価格は今後も上昇が続く見込みである。

住宅着工件数

(年率、万戸)



(出所)米商務省

(年、月次)

S&Pコアロジック・ケース・シラー住宅価格指数

(前年比、%)



(出所)S&P Global

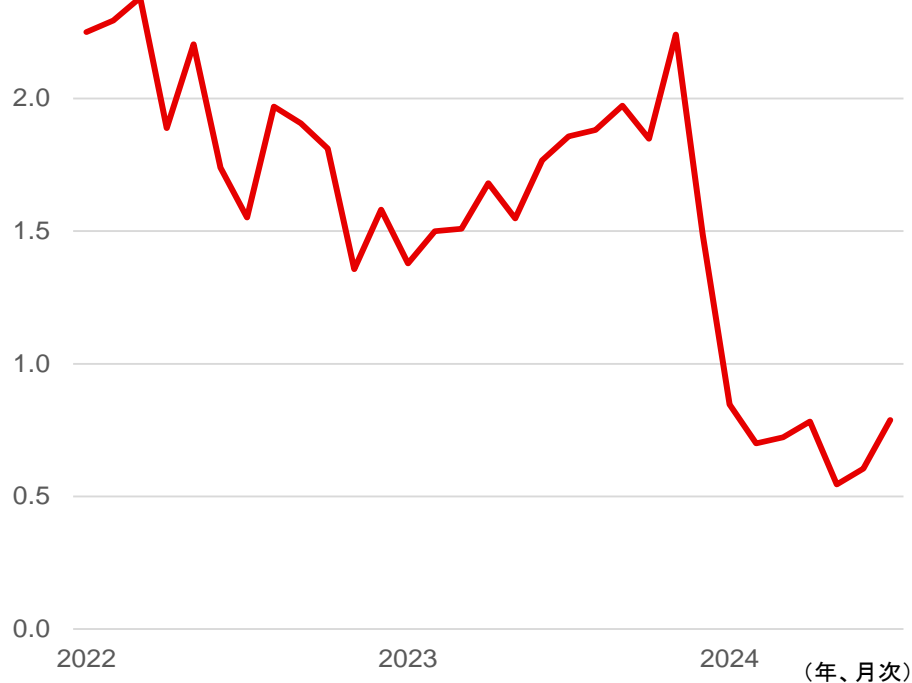
(年、月次)

労働市場：軟着陸がメインシナリオもレイオフ増に注意

- 失業率上昇が景気の先行き警戒感を高めている。失業率上昇は、失業者の増加に加え、移民流入規制の強化にともない労働力人口の増勢が鈍化していることが同程度に寄与している。
- 雇用市場動向を振り返ると、コロナ後の経済再開で人手不足が強まったが、移民流入増などもあり人手不足感も和らいだ。それに対応し、失業率も一時は約60年ぶりの低水準となる3.4%まで低下したが、その後は4.3%に上昇した。それでも依然4.2%程度とされる自然失業率並みにとどまるほか、消費の底堅さもあり、景気の軟着陸は可能との見方が大勢である。もっとも、解雇など失職による失業者数が循環的に上昇している。今後一段と増加する可能性もあり注意が必要であろう。

労働力人口

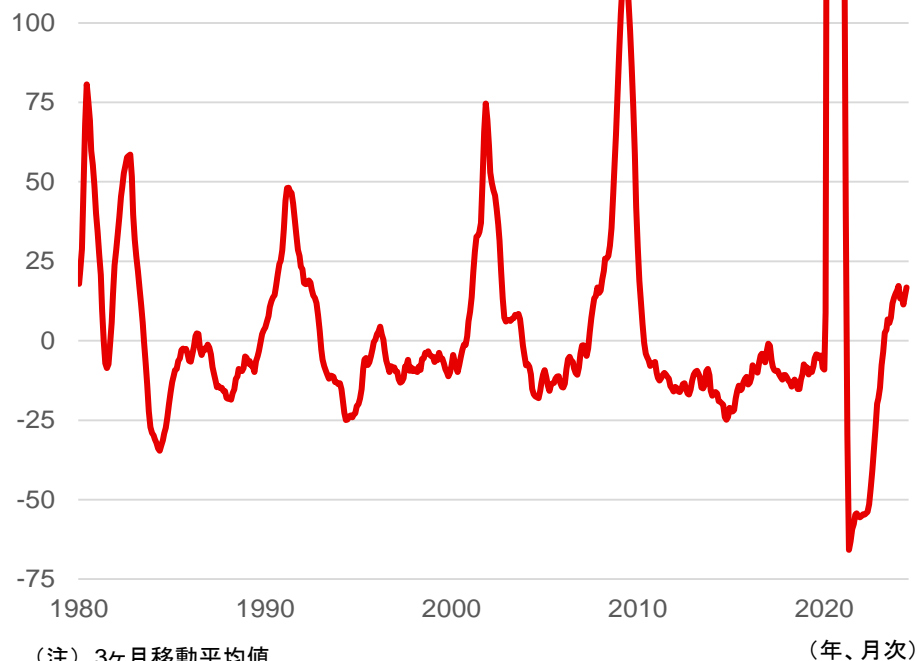
(前年比、%)



(出所)米労働省

解雇など失職による失業者数

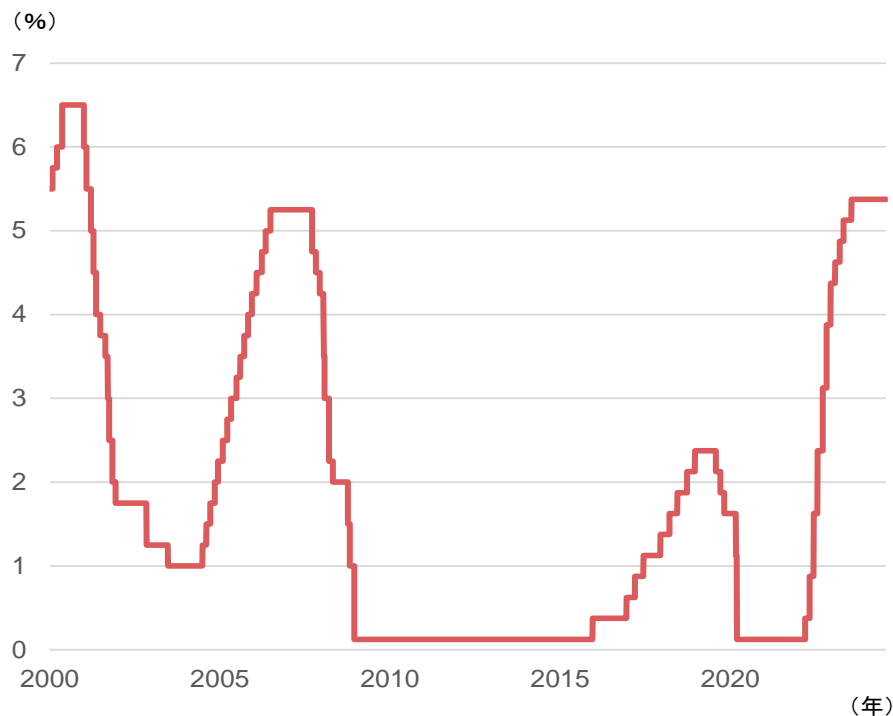
(前年比、%)



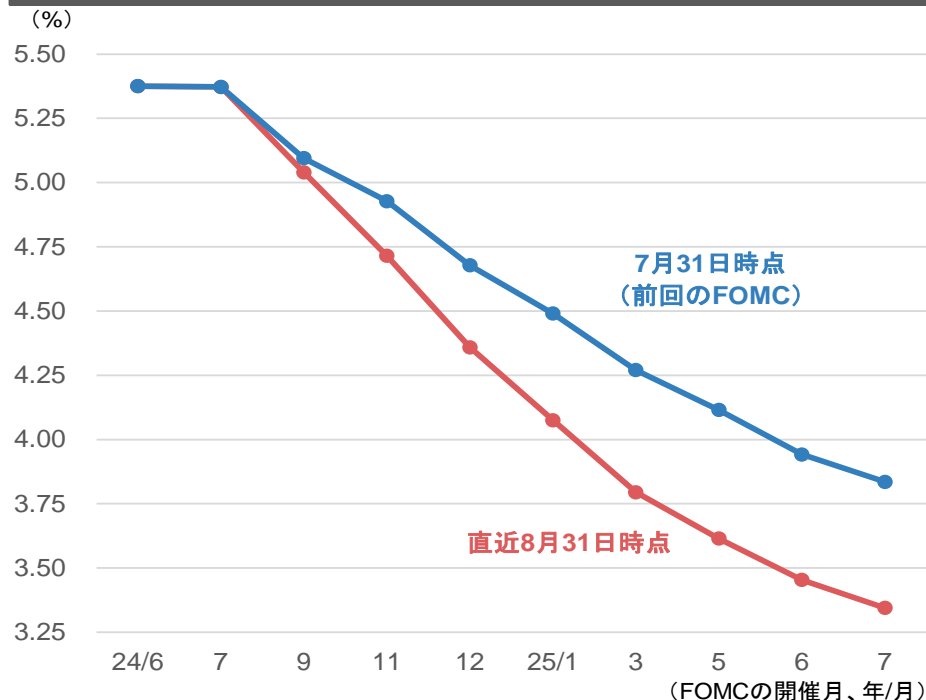
金融政策：9月利下げ開始の公算、景気減速懸念もあり利下げペースが焦点に

- FRBは7月30、31日に開催した連邦公開市場委員会(FOMC)で、政策金利であるFF金利の誘導目標を5.25~5.5%に据え置いた。政策金利の据え置きは8会合連続。パウエル議長は会見や8月下旬に開催された国際シンポジウムで、次回9月会合での利下げ開始を示唆した。
- 米金利先物の値動きからFOMCごとの政策金利を予想するシカゴマーカンタイル取引所の「フェドウオッチ」によると、各FOMCごとの予想金利は、国際シンポジウムでのパウエル議長発言などで、7月FOMC会合時と比べ低下、今後1年で合計2%ポイント程度の利下げが織り込まれている。今後は、景気の減速ペースなども踏まえながら利下げ開始後の利下げペースが焦点となる。

政策金利



金融市場における各FOMCの金利見通し



(注)各FOMCごとの利上げ確率をもとに計算した加重平均値
(出所)シカゴマーカンタイル取引所

ご利用に際して

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

(お問い合わせ)

調査・開発本部 調査部 細尾

TEL: 03-6733-4925 E-mail: chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー